

大規模災害に備えて 次のことを考えておきましょう！

I はじめに

被災した犬約 4,300 頭、被災したねこ約 5,000 匹

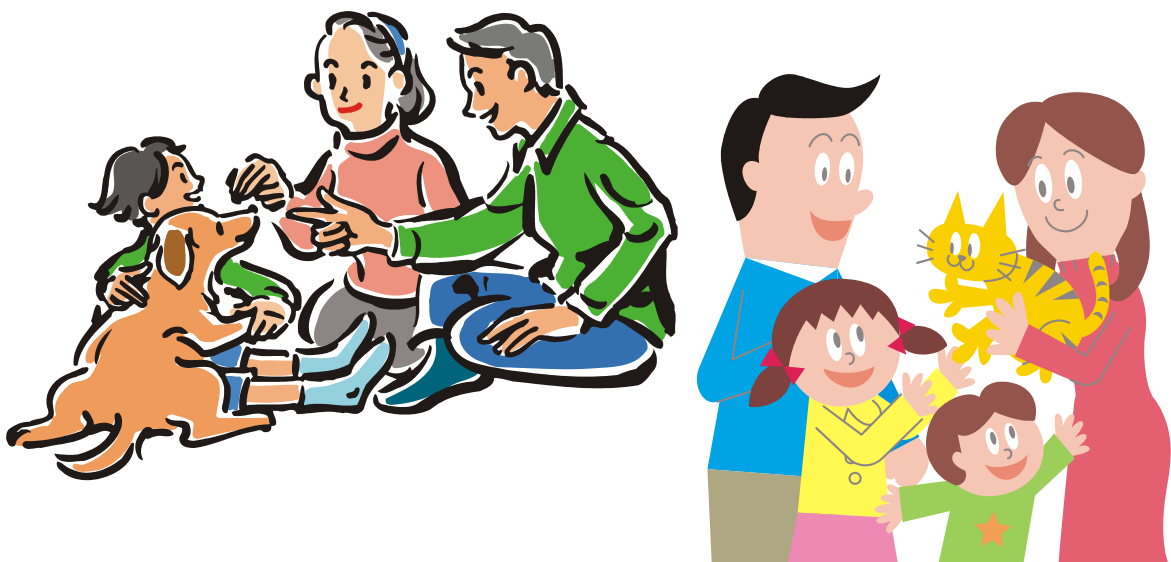
これは、神戸沖地震（阪神淡路大震災）で被災し、保護施設に収容された犬ねこの数です。

ひとたび地震が発生すれば、人だけでなくペット動物たちも同じように被災し、飼い主とともに避難生活を余儀なくされます。

ペット動物は単なる動物から伴侶動物へと、その存在自体が飼い主の心の支えとなってきた現在の、ペットと片時も離れたくないと思う飼い主も少なくありません。

しかしながら、避難所は必ずしもペット動物を受け入れる余裕のある所ばかりではありません、また、動物好きの人ばかりが避難しているところでもありません。

このマニュアルは来るべき大地震に備えて、避難所でのペット動物の適正な飼養を進めていく上での一助となるべく作成しました。



Ⅱ ペット動物の飼養者の方へ

この章では、災害時に備えて普段からペット動物（特に犬・ねこや小動物）の飼い主のみなさんが心がけておくべきことや準備しておくべきことについて記載しています。

1 日頃からのこころがけ

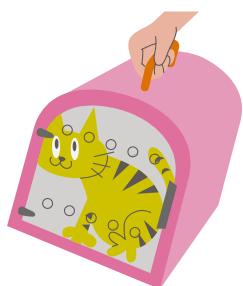
突然の災害に遭い避難所で生活することになった時に、家族の一員であるペット動物を残したままで避難することはできません。

家に残したまま避難すると、飢え死にしたり行方不明になる等様々な問題が生じますので、ペットを避難所へ連れて行けるよう、避難所へ行った時に周りの避難者に迷惑をかけないように、しつけについても普段から心がけておきましょう。

基本的なしつけはしておきましょう

避難所の中では、飼い主の責任でペット動物の管理を行わなくてはなりません。

特に犬の場合は基本的なしつけ（おすわり、待て、フセ、トイレトレーニング）と、むだ吠えについてしっかり制御できるようにしておきましょう。



ケージやキャリーケースに慣れさせておきましょう

避難所に入れば、小型の動物は基本的にケージやキャリーケースの中での飼育となります。

自宅から避難所へと急激な環境の変化の中で、ペット動物が落ち着ける場所を確保するためにも、普段からケージやキャリーケースの中で過ごすことに慣れさせておくことが必要です。

リードやハーネス（胴輪）に慣れさせておきましょう

避難所内では動物の苦手な人への配慮や脱走防止として、犬・ねこをケージから出すときは必ずリードやハーネスでつないでおくことが必要です。



2 ペット用の非常持ち出しの準備

いざとなってから慌てる事のないように、次のようなものをペット用非常持ち出しとして準備しておきましょう。

必ず必要なもの

- ・ 首輪またはハーネス(胴輪)

- ・ リード(クサリ)

- ・ 犬の場合は鑑札及び狂犬病予防注射済票

普段から首輪やハーネスにしっかりと付けておきましょう。

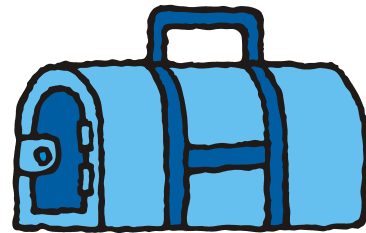
- ・ 迷子札

万が一、迷子になった時のことを考えて、飼い主の名前や連絡先を書いて首輪やハーネスなどに付けておくと役立ちます。

- ・ ケージ(キャリーケース)

ペットが安心できるように、普段から使い慣れているものが良いでしょう。

保温や目隠しのために毛布やカバーがあればなお良いでしょう。



- ・ 水とペットフード



食べなれているフードと水をできれば1週間分程度(最低でも3日間)用意しておきましょう。

避難所では普段食べ慣れているフードが配給されるとは限りません。ドライフードも食べれるようにしておいたほうが良いでしょう。

また、病気治療などによる処方食が配給されることは望めませんので、事前に準備しておきましょう。

- ・ 小動物の場合、敷わらなど

ハムスターやウサギなどを飼育している場合は、1週間分程度の敷わらなどを用意しておきましょう。

- ・ 食器と水のみ容器

- ・ うんち袋、トイレ砂

- ・ ペットシーツ

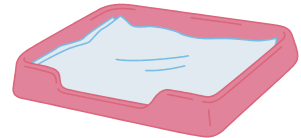
ペット動物を避難所室内で飼う場合は必需品です。

- ・ ブラシ、クシ

広い場所などでの散歩等の運動ができない場合でも、ブラッシングを十分に行って飼い主とふれあいの時間を持てばペットのストレス解消にもなります。

- ・ 常備薬

動物病院が被災した時のために、持病のあるペットの場合は常備薬のリストを持っていけば安心です。



準備していれば便利なもの

- ・ おもちゃ、おやつ（チューインガムなど）

慣れない環境での気分転換に、お気に入りのおもちゃやおやつなども用意しておく役立ちます。

- ・ タオル、新聞紙

- ・ ペーパータオル、ゴミ袋

- ・ ウェットティッシュ（ウェットシート）

ペットの手入れの時に、除菌や消臭タイプがあれば役立ちます。

- ・ 雑巾

- ・ ペットの写真

万一ペットとはぐれたときに写真があれば役立ちます。



3 避難所生活での注意点

避難所内には動物の苦手な人や動物にアレルギーを持っている人もいます。共同生活を営むうえでも、次のことに気をつけましょう。

避難所内でのペットの飼育に関するトラブルは飼い主の責任で処理しましょう。

他の避難者を傷つけた、他の避難者の持ち物を傷つけたり壊したりした場合は飼い主に賠償責任が生じます。

また、他のペットとけんかしてケガをさせたりした場合は、飼い主さん同士で話し合い、処理してもらうことが基本となります。

避難所内ではケージ（キャリーケース）内で飼いましょう

避難所内では、他の人との共同生活となるため、つないで飼っても良いと指定された場所以外では、基本的にケージやクレート内での飼育となります。

たとえ小型の動物であっても、放し飼いは決してしないでください。

フン尿の処理はきちんとしましょう

閉鎖された避難所内では臭いがこもりがちですので、ペット用トイレ砂を使っている場合はこまめに掃除しましょう。

特に犬・ねこを連れて入所した場合は、避難所の居住エリア内ではフン尿をさせないように努めましょう。

また、ペットのトイレに指定されている場所以外で尿をした場合は、水をかけて臭いが残らないような配慮をし、フンについては必ず避難所管理者が指定する方法で処理しましょう。



ブラッシングは必ず屋外でしましょう

特に季節の変わり目はよく毛が抜けます。

動物の毛によるアレルギーを持っておられる人もいますので、ブラッシングは必ず屋外で行い、抜け毛はビニール袋等に入れて普通ゴミとして処理しましょう。



避難所付近の動物病院等の場所を調べておきましょう



慣れない避難所生活で、ペットも体調を崩すこともあります。

避難所に入所したら近くの動物病院の情報を入手しておきましょう。

また、ペット用品店の情報も入手しておきましょう。

※ 爬虫類や両生類などは、飼育に関して特殊な設備や保温器具等が必要となり、避難所内での飼育は難しいと考えられます。

また、大型犬の場合も飼育スペースの不足等を理由に、避難所によっては連れて入ることを断られることもあります。

そのようなペットを飼われている場合は、万一の場合に預かってもらえるペットショップや知人などを事前に探しておきましょう。